

平成22年7月1日

(第70号)

鵜戸



暑中お見舞ひ申し上げます



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

887-0101

宮崎県日南市宮浦3232

0987-29-1001 FAX0987-29-1003

鵜戸神宮ホームページ

<http://www.btvn.ne.jp/~udojingu/>

発行者兼編集者
鵜戸神宮社務所

豊葦原の瑞穂国



宮司 本部雅裕

先日、宮崎県では有名な「えびの米」を送っていたいただきました。えびの市で焼酎『名月』を造ってをられる、旧知の明石酒造の社長さんからの贈り物でした。さっそく、朝ご飯に家族一同でいただきました。ご飯の表面にツヤがあり、なるほど美味です。あらためて、日本人の朝食はご飯に限ると思つたところです。

いふ話をよく聞きますし、朝食を摂らないで仕事や学校に行く人も多くあるさうです。

一方、日本人の米離れは激しいと言はれておます。学校給食では、週に三回程の米食があるさうですが、都会では、若い社会人など通勤途中のファストフード店で軽く済ませると

ところで、我が国の稲作は遠く神代にさかのぼります。「日本書紀」には、天孫降臨のとき天照大御神が御孫の邇邇藝命に一束の稲を授けられ、「吾が高天原にきこしめす斎庭の穂を以て、また吾が兄に御せまつるべし」と仰せになられます。つまり、「私が高天原で作る神聖な田の稲穂を、わが子に授けよう」と仰つて、それを天孫が持つてこの地上に降り立たれたのであります。

有史以来、私たち日本人はその稲種にて田植系、稲刈り、収穫を繰り返して、米食を主食として代々生きてきたのです。

もし、ある時期、飢饉のために来年に残すべき種籾を食べ尽くしてゐたら、もし、怠けて田植系稲刈りをしない日本人の歴史があつたら、その時、神代から続いた稲作は途絶へ、日本人の今の食卓からご飯がなくなつてしまつてゐるといふことになるのです。

かつて私たちの先祖は、決してこのやうな行ひは一度たりともしませんでした。天照大御神から御歴代の天子さまに至るまで、また農民は「小山田に樋掛け渡ししき山清水を集めて」は、「手肱に水泡掻き垂り向股に泥掻き寄せて」毎年毎年一所懸命に稲作り

ところで、我が国の農業政策はどうでせうか。以前から「ノイ政」と言はれては来ましたが、今、「戸別所得補償」が行はれようとしてゐます。農業政策は稲作の原初や、我が国文化の本源、また農民の精勤性にも配慮したものでなければなりません。これまた、「税金を得ないのではありません。かへって、狭い農地を創意工夫して耕作し、美味いお米を作り出さうといふ、伝統的な農民の勤労意欲を削ぐものでしかない」と、私は思ふのです。

鵜戸神宮では、このやうな神々の御事績と、稲と共に生かされてきた日本人の歴史を思ひ起こすとともに、日南地方の超早場米を広く世に周知する一助にもなればと考へ、平成十二年より「御田植祭」の祭事を興しました。今年は三月十九日にお田植祭を斎行

し、稲刈りにあたる「抜穂祭」は早くも七月二十日に行はれる予定です。二〇〇mの「御神田」の稲穂は、初夏の爽風にゆれながら順調に生育し、まもなく出穂の時を迎えます。(写真)



お田植祭

冷風も和らぎ、あたたかな陽ざしとなつた三月十九日、鵜戸小学校側のご神田でお田植祭が斎行されました。

JAはまゆうの女性職員三名と巫女二名が早乙女奉仕、また、小学校児童と先生方、地元住民の方々に参加いただき、賑やかに楽しく田植系が行はれました。



皇子神社改修工事

ご本殿の左手奥へ進むと神武天皇の御兄君「彦五瀬命」がお鎮まりになる皇子神社があります。昭和四十三年に改修工事が、また平成二年に銅板屋根葺き替へ工事が行はれ現在に至つてをります。



仮殿遷座祭

工事安全祈願祭

- 五月十日 午後八時 本殿へ仮殿遷座祭斎行
- 五月十三日 工事安全祈願祭
- 五月二十七日 改修工事着工
- 六月三十日 改修工事終了
- 皇子神社竣工祭斎行
- 皇子神社遷座祭斎行
- 七月十日

参 進

宮司祝詞奏上



舞楽「蘭陵王」奏舞



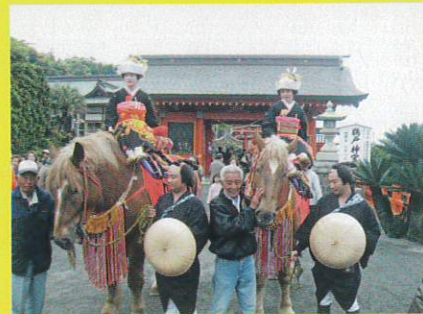
「鵜戸さん獅子舞」奏舞



「シャンシャン馬道中唄」奉唱



優勝めざし222名による熱戦



庄司教人・清加夫妻
村角知幸・瑤子夫妻

縁日大祭・シャンシャン馬道中再現
(三月二十七日)
シャンシャン馬道中唄全国大会
(三月二十八日)

掛け軸奉納

三月二十七日、西都市出身で現在神奈川県にて活躍中の書家寺原聖山氏が来宮された。同氏は宮司とのご縁深く、この日は大神様の御神徳に感謝の意を表し掛け軸を奉納された。

鑒 かんがみる (鑑)

過去の事例や現在の一般的事情をよく考へ合はせて、自分の判断を決める
奉納 平成二十二年三月二十六日
書家 寺原聖山
宮崎県西都市出身
神奈川県寒川町在住
誠光書法会理事



献幣使 宮崎県神社庁 杉田秀清庁長と楼門にて

例祭 (二月一日)

舞楽「蘭陵王」奏舞

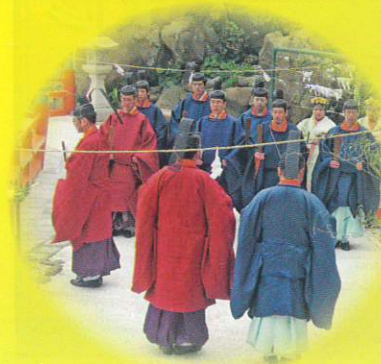


種まき



播種祭 (二月九日)

修 祓



「浦安の舞」奏舞



参 進

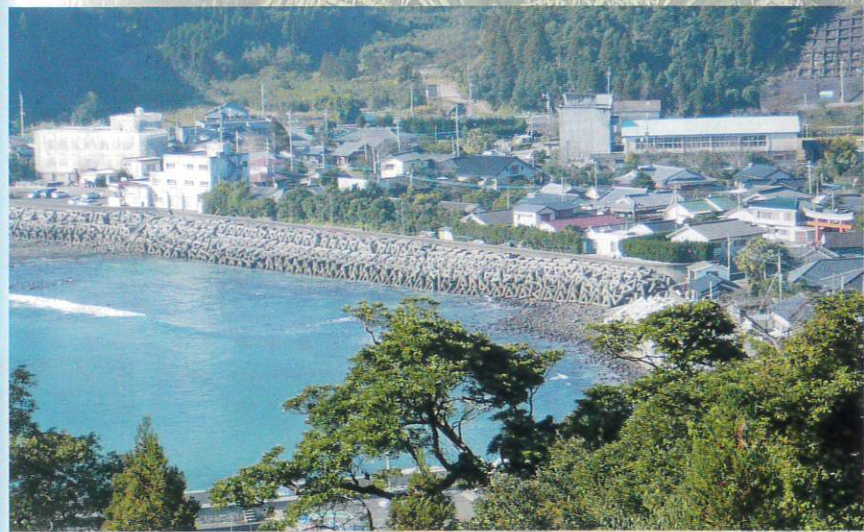
祈年祭 (二月十七日)

子どもたちがこれらを意識し、神楽から学んだこととして、しっかりと身に付け、日常生活の中で生かしてほしいものである。

その他、「総合的な学習の時間」を活用して、雅楽の楽器やその音色に触れたり、お乳飴づくりを見学させていただくなど、大変お世話になっている鵜戸神宮である。

また、神宮が生息北限とされた「ツマベニチョウ」や、国の天然記念物に指定されている「鵜戸へゴ自生北限地帯」など、本校をとりまく環境は、鵜戸神宮を中心として、さまざまな「ふるさと学」

の素材であふれている。学校は地域あつての学校なのである。学校生活の一年間を振り返ってみると地域において世話になっていることがはつきりと感じ取れる。子どもは家庭で生まれ、地域で育つが、子どもにとって地域は、大地のようなものである。木は根を大地に向かって深く伸ばし、大地の養分を吸収して成長し、風雨に耐える力を養う。子どもも同じである。生まれ育った地域で、そこに住む「人」、そして「物（史跡）」から先人の知恵と工夫を学び、社会性



八丁坂より海を眺める（写真右上が小学校）

を培い、地域帰属意識を養いつつ成長する。子どもは地域の宝である。いつたんは都会に出て、いつか帰ってきてふるさとを活性化

を願っている。現在、原田校長先生は狭野小学校に赴任されています。

巫女 松本しおり
（まつもとしおり）
平成三年七月八日生
日南振徳商業高校卒業
笑顔が心がけて、参拝の皆様
に親切な対応ができるやうに
したいです。



巫女 山下みづき
（やましたみづき）
平成三年四月八日生
日南農林高校卒業
参拝の方々に、鵜戸神宮の魅
力や宮崎の温かさを知って
いただけるやうに、丁寧に接
していきたいです。



新職員紹介

鵜戸小学校と鵜戸神宮

日南市立鵜戸小学校
第40代校長 原田敏彦



一吾平の峰に照る朝日
七浦道のさくら花...
二黒瀬おどる鵜戸の宮
岩のつぼみききつ...

これは本校校歌の一部である。校歌にうたわれている「鵜戸の宮」とは鵜戸神宮のことであり、昔から新婚さんが「鵜戸さん参り」をしたという七浦街道もうたわれている。また、馬に鈴などの飾りを付けて行き交ったことを唄にした民謡「シャンシャン馬道中唄」は、子どもが歌いやすいように編曲され、本校の入学式や他校との交流会などで歌い、本校のシンボリックな歌として子どもたちが歌いつい

ている。それほど本校と鵜戸神宮とは縁が深いのである。鵜戸神宮は、本校から歩いて二十分程度のところにある。鵜戸地区の集落を過ぎると右手に鵜戸漁港が見え、左手前方に石の階段が見えてくる。これが有名な「八丁坂」の入り口である。鵜戸神宮を参拝するにはいくつもの道があるが、もっとも風情のある道がこの八丁坂を歩く参道である。延暦年間（七八二〜八〇六）に吹毛井の尼僧が磯の岩を頭に乘せて運び築いたものが元になっていると言われている。現在の石段



は、約二百年前のもの
であるらしい。上り
四三八段、下り三三七
段、合わせて八丁（約
九百メートル）になる
ので「八丁坂」である。
実際に歩いてみると石
の中央がすり減ってお
り、幾多の歳月とお参
りした人々の思いが偲
ばれるところである。
学校から鵜戸神宮本殿
までの景観は、子ども
たちが描く絵の格好の
題材でいっぱいである。
また、子どもたちと
鵜戸神宮とのつながり
は深く、毎年秋に行わ
れる「新嘗祭」では、
四年生が「子ども神楽」
を奉納している。最近
では児童数の減少によ
り三年生も加わって
舞っている。この舞に
よって子どもが学ぶこ
とも多い。一つは歴史
を学ぶということであ
る。二つめは練習を通
じて得られる規範意識
や礼儀作法、感謝の心
がある。三つめは、実
際に人前で舞うことで
得られる表現力である。

職員研修を終へて

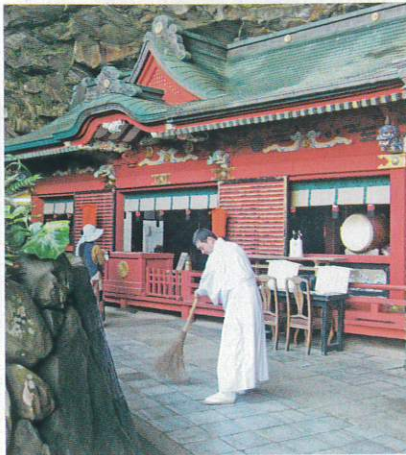
この度本部宮司様のお計らひにより、都農神社の神職全員が鵜戸神宮で三日間研修させて頂くことになった。かくいふ私も、五月十七日より三日間お世話になった。私にとつて鵜戸神宮は特別の思ひがある。といふのは両親が何と新婚時代を鵜戸神宮で過ごしてゐるのである。私は三歳まで当地に居たとのこと。父、隼見は高鍋農業を卒業す

さて、研修二日目は、別当宮司先賢慰霊祭で御奉仕させて頂いた。名誉なことであった。親父も喜んだに違ひない。西行法師ではないが有難さに涙こぼるるおもひであった。三日間研修して都農神社が見えてきた。皆親切だった。鵜戸神宮で多くのものを学んだ。それを今後生かして行きたい。最後になったが、本部宮司さまをはじめ職員の皆様、有難ふございました。

都農神社
彌宜 豊川重久



ご社頭奉仕



責任役員 氏子総代改選

責任役員を委嘱します。

平成二十二年六月一日

- 田中 静・植野章一
- 藏富英志・濱上 貢
- 長友 治・湯浅智視
- 和田 皓・村中俊二

氏子総代を委嘱します。

平成二十二年五月一日

- 長谷川弘・鬼束忠一
- 後藤邦治・川瀬満政
- 江口義雄・波越重利
- 川瀬 力・長友 泰
- 南部良三・磯上英機
- 泉 昭信・湯浅勝好

編集後記

○社報「第七十号」をお届けいたします。
○表紙の写真は、毎朝の境内清掃の様子を撮影しました。
○人、家族、そして地域との大切な絆を強めあひ、離れてしまいがちな思ひやりや、やさしさ、幸せを少しでも多く掻き寄せなければと感じた朝でした。
○今年も、保護種に指定されてゐる「ツマベニチヨウ」が境内上空を飛んでゐるところを見かけるやうになりました。きれいなオレンジ緑の羽で優雅に飛んでゐる姿を見ると穏やかな気持ちになります。
○みなさまのご参拝を心よりお待ちしております。
(高)